

平成26年度

# 小平市教育研究発表会

2月4日(水)ルネこだいら大ホールにて、小平市教育研究発表会を開催しました。  
発表会の内容は次のとおりです。

## ◆こだわりの小・中連携教育

はじめに小・中連携教育推進委員会委員長より、今年度の小平市の小・中連携教育の概要や、次年度に向けた取組などについて発表がありました。その後、小平第一中学校区、小平第二中学校区、小平第三中学校区より特色ある取組について紹介がありました。

## ◆特色ある教育活動

▽キャリア教育の推進に関わる取組  
小平第八小学校より、これまでの研究で開発した「八小キャリア教育プログラム」を基にしながら、学級活動と道徳の授業について、生活科や総合的な学習の時間と関連させ、計画的・系統的に授業実践などを行ってきたことについての発表がありました。

## ▽言語活動の充実に向けた取組

小平第九小学校より、社会科・生活科・生活単元学習を通じた言語活動の充実に向けた取組についての報告がありました。

## ▽体力の向上に向けた取組

小平第十一小学校より、体づくり運動を通して体力向上に向けた取組についての報告がありました。発表の途中に、ステージ上で教員による大なわ跳びの実技が行われるとともに、学校が独自に開発した児童向けの体操や遊具の活用など、具体的な取組についての発表がありました。

## ▽心の教育の推進に向けた取組

小平第五中学校より、地域で活躍する方との交流などを通して心の教育の推進に向けた取組についての報告がありました。プロのクラリネット奏者を特別審査委員として迎えた

合唱祭の開催や、車椅子女子バスケットボールチームの方々と交流など、生徒の心の教育を推進する取組についての発表がありました。

## ◆小平市立中学校生徒会などによる

いじめ撲滅に向けて、生徒会などが中心となって行っている取組について、その内容や活動の様子をスライドショーで上映しました。小平市立中学校8校の、それぞれの学校の特色を生かした取組は、他の中学校教員だけでなく、小学校の教員にも参考になりました。

以上の発表に加え、小平市教育委員会研究推進校1年目の小平第一小学校、小平第十四小学校および上水中学校より、1年間の研究内容や成

果と課題などについての発表がありました。この3校は、来年度学校ごとに研究発表会を行います。  
発表を行った学校の成果を、小平市立学校全校で共有しながら、小平市の教育の質のさらなる向上を図っていきます。  
(指導課)



(小・中連携教育の報告)

## 平成26年度

# 児童・生徒の学力向上を図るための調査(東京都教育委員会)結果の概要



	教科名	小平市	東京都
小学校	国語	74.4	74.1
	社会	71.0	69.7
	算数	61.2	61.6
中学校	理科	65.4	65.4
	国語	60.9	59.8
	社会	58.2	56.1
	数学	56.2	53.1
	理科	52.4	50.8
	英語	54.6	53.6

注)表中の数値は平均正答率を表す。(単位:%)

東京都教育委員会では、子どもたち一人一人の学習状況の改善と、学校における授業の改善および区市町村における学力向上のための施策の充実に関することを目的として、公立の小学校第5学年および中学校第2学年を対象に、毎年調査を行っています。今年度7月3日に行われた本調査について、小平市における結果の概要をお知らせします。

## ◆教科に関する調査

教科に関する調査では、小学校では国語、社会、算数、理科の4教科を、中学校では国語、社会、数学、理科、英語の5教科を調査しています。

## ◆学習に関する意識調査

学習に関する意識調査では、各教科の内容の理解や学校以外の学習、また生活や行動などについて調査しています。

「自分の住む地域や社会をよくしたい」「自分の住む地域や社会をよくするために何かしている」「将来社会や人の役に立つ仕事をしたい」と回答した子どもの正答率は「そう思わない」「ない」と回答した子どもの正答率よりも約5〜14ポイント高い結果となりました。このことから、小平市教育振興基本計画において「めざす人間像」として掲げている「地域や社会に愛着を持ち、自分にできることを考える」子どもの育成は学力の向上にもつながると考えられます。

さらに、読書の時間がほとんどない子どもに比べ、60分以上読書をする子どもは、算数の平均正答率が約8〜19ポイント高いことがわかりました。「学校のきまりを守ることは大切だ」「朝食を毎日食べる」「家の人と学校や社会の出来事について話をする」「自分を大切に思う」という質問に、「思わない」「していない」と回答した子どももいましたが、これらは基本的な生活習慣や自尊感情など、教育の中核をなすものであり、家庭や地域、関係諸機関と学校が連携して改善していく必要があります。

## ◆まとめ

学習指導要領を基に、「比較・関連付けて読み取る力」や「解決する力」を身に付ける指導の展開を図ることが重要であることが本調査の結果と分析からわかりました。

算数・数学においては、習熟度別指導や少人数指導できめ細やかな指導を行い、問題解決型の学習、つまり情報を正確に取り出し、それを分析・解決する学習に積極的に取り組んでいます。各家庭においては、算数・数学でできなかった問題に重点的に取り組むことで基礎・基本の定着を図ることが大切です。国語にお



東京で自由学習をすすめるために、児童がドリルを選べるスペースが用意されています。

いては、「情報を正確に取り出す力」を重点として言語の基礎・基本を養うための学習が大切です。

## ◆家庭における学習へのつながり

東京都教育委員会では、小学校第4学年までの国語・算数・社会・理科の基礎的な学習内容と知識を身に付けるための教材として、東京ベリック・ドリルを作成し、小平市でもこれを活用しています。各学校から配付した個人票には、ドリルの復習する必要がある部分や、子どもの状況に合わせて記載されています。

なお、このドリルは東京都教育委員会のホームページからダウンロードできます。小平市においても、今後東京ベリック・ドリルを効果的に活用して、個に応じた指導を続け、子どもたちの学力向上を目指します。

## 情報モラルを育むために (第4回)

本年度、このコーナーでは、情報モラルを育むためには、どのような手立てが必要かを3回にわたり連載してきました。

第1回	情報モラルとは何か、情報モラルを育むための各小学校での取組
第2回	家庭でのルールづくり
第3回	ネット依存などのインターネットの負の面について

今回はこれまでのまとめとして、インターネットなどの利用に関して、各家庭のルールを生かすためにできることを考えていきます。

## ◆気軽に話し合える環境づくり

各家庭のルールを実際に活用できるものにするためには、家庭内はもちろん、他の家庭や学校など、ルールの適切さやインターネットなどの使い方、困っていることなどを気軽に話し合えるような環境づくりが大切です。

スマートフォンや携帯電話などを使用する時間や場所の制限、また個人情報や取扱いや料金などについて、すでにルールを設け、適切な利用に取り組まれているご家庭もあるかと思えます。しかし、家庭ごとに使用している時間に差があること、返信をもらえなかった子どもが「無視された」と思い込んだり、せっかく決めたルールが守られなかったりする場面もあります。

つくったルールが十分に守られ、適切にインターネットを利用していただくためにも、子どもたちや保護者、地域の方々と話し合える環境をつくるのが大切です。

▽新学期や誕生日などの節目に家庭で話し合う  
各家庭において、子どもの実態に合ったルールかどうかを折に触れ、話し合う必要があります。

▽学校や東京都からの呼びかけに積極的に取り組む  
市内のある中学校では、テスト1週間前に「ノー携帯・ノーゲーム」週間の取組を行い、学校全体で7割強の生徒が取り組んだとのこと。それぞれの家庭で取り組むには難しいことでも、学校などの呼びかけをきっかけにすることで、よりよいルールにすることができそうです。

▽現状を知る機会を活用する  
PTAが主体となった講演会や保護者会、セーフティ教室などにおいて、スマートフォンや携帯電話などのルールが話題に取り上げられることがあります。特に、セーフティ教室では、保護者、地域、関係諸機関を交えての協議会をもつことができそうです。他の家庭のルールについて知り、共通の話題について話し合ったりしてはいかがでしょうか。

各家庭で決めたルールを生かし、子どもたちが安全にインターネットを活用できるようにするためにも、子どもたちがルールを伝え合い、互いにそのルールを尊重できるようにすることが大切です。そのためには、日頃から相手の立場に立ち、思いやる気持ちを育てたいものです。また、大人はルールが確実に守られているか見守るとともに、子どもの成長や状況に合わせて、自らの意思でインターネットの利用をコントロールできるよう、ルールの見直しの提案も行っていく必要があります。進級や進学により、子どもたちの新しい人間関係が築かれるこの時期が、新たなルールづくりのチャンスです。ぜひお子さんと一緒に考えてみてください。